

自己評価報告書

平成23年4月18日現在

機関番号：11301
研究種目：若手研究 (A)
研究期間：2008～2011
課題番号：20686034
研究課題名 (和文) 地域政策の提案型制度が果たす機能と役割：理論的整理と制度設計
研究課題名 (英文) Functions and roles of regional policy proposal systems - theoretical investigation and institutional design -
研究代表者：
福本 潤也 (FUKUMOTO JUNYA)
東北大学・大学院情報科学研究科・准教授
研究者番号：30323447

研究分野：土木計画学

科研費の分科・細目：土木工学・土木計画学・交通工学

キーワード：提案型制度, 地域政策, プログラム評価, ゲーム分析, 社会ネットワーク分析

RIA, アンケート調査

1. 研究計画の概要

本研究では、構造改革特別区域制度や地域再生計画制度に代表される地域政策の提案型制度に着目する。提案型制度とは、1) 地域が政策を立案して国に対して提案し、2) 国が提案内容を審査して一定の成果が見込まれると判断した場合に支援する制度である。提案型制度の新規導入や制度見直しに備え、提案型制度の機能と役割についてゲーム理論等を用いたモデル分析により理論的に整理する。また、その前段として、提案型制度の導入が政策形成プロセスに与えた影響について事例分析を行う。同じく、提案型制度を支える事後評価の方法論についての再検討を行い、プログラム評価の方法論の適用可能性を検討する。

2. 研究の進捗状況

本研究の分析内容は以下の4つのフェーズから構成される。

- (1) 提案型制度を利活用した事例に関するケース・スタディ
- (2) 提案型制度を支える事後評価の方法論についての再検討とプログラム評価の方法論の適用可能性の検討
- (3) ゲーム分析等による提案型制度の機能と役割についての理論的考察
- (4) 提案型制度の新規導入や制度見直しに備えての設計指針の検討

(1)については、①鶴岡市と軽米町における地方の元気再生事業の取り組みについて事例分析を行い、社会ネットワーク分析で提唱された構造的空隙の概念を用いると、提案型制度が有効に利用されるようになる契機を説明できることを明らかにした。また、②4つの提案型制度（構造改革特別区域制度、地域再生計画制度、全国都市再生モデル調査、地方の元気再生事業）の導入が政策策定プロセスに与えた影響に関する東北6県の230市町村を対象とするアンケート調査と、③構造改革特別区域制度の適用実績の実証的特性に関する統計分析を行った。分析結果として、人口規模の大きい市町村ほど提案型制度を利活用するが、人口規模が等しい市町村間では財政状況が悪い市町村や人口減少率が高い市町村ほど提案型制度を利活用する傾向があることを明らかにした。

(2)については、①社会ネットワーク分析の方法論を援用した提案型制度の適用実績の実証的特性の可視化手法を開発した。評価指標を定義した上で適用実績の定量的な評価も行った。また、②構造改革特別区域制度を支える規制緩和の影響評価手法を提案し、車検制度の規制緩和を事例とする実証分析を行った。

(3)については、①構造改革特別区域制度の理論的特性を把握するため、ゲーム理論に基づくモデル分析を行った。分析結果として、構造改革特別区域制度の場合、提案の審査段階と事後評価段階における規制の所掌官庁の権限が大きく変化するため、提案型制度の促進が阻害される性質を有することを理論的に明らかにした。また、②ソーシャル・キ

ャピタルの有無が提案型制度の利活用に与える影響についてもモデル分析を行った。

3. 現在までの達成度

現在までの達成度は「②おおむね順調に進展している」と評価する。

「2. 研究の進捗状況」で掲げた4つのフェーズの内、(1)と(3)については当初の計画通り研究が進んでいる。一方、(2)については、当初計画していたプログラム評価手法では地域の経済社会に小さなインパクトしかもたらさない提案型制度の適用事例の評価が困難であることが研究を進める過程で明らかになった。また、2009年夏の衆議院選挙後の政権交代により、政府の地域政策をめぐる方針が大きく変わったため、提案型制度の適用実績の継続的な調査や評価が困難になった。そこで、分析内容を変更して、社会ネットワーク分析による事後評価手法や事前の規制影響分析の評価手法の開発を中心に研究を進めた。当初計画していた研究内容とは異なるものの、「2. 研究の進捗状況」で指摘した通り、興味深い研究成果は得られている。以上より、「②おおむね順調に進展している」と評価した。

4. 今後の研究の推進方策

4年目は研究を総括するため、「2. 研究の進捗状況」で掲げた4つのフェーズのうち、(4)提案型制度の設計指針に取り組みたい。2011年3月11日に発生した地震に起因する東日本大震災の被災地の復興計画をめぐる議論の中で総合特区制度を活用した復興特区の創設が有効ではないかとの提案・指摘がなされている。被災地の復興計画をめぐる議論の論点を整理した上で、復興特区が果たすべき機能と役割についても議論する予定である。また、(2)についてもこれまでの研究成果を発展させ、RIAとプログラム評価の方法論を組み合わせることで、車検特区をデザインすることを計画している。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計7件)

- 1) 福本潤也・岡本佳洋：提案型制度の利用実績における自治体間格差の実証分析，土木計画学研究・論文集，Vol.27, pp.297-304, 2010, 査読有り。
- 2) Fukumoto, J. and Goto, Y. : Vehicle durability and compulsory inspection and maintenance, Selected Proceedings from the 12th WCTR, 2010, 査読有り。

- 3) 福本潤也・後藤雄太：特区制度における社会実験の不完備ゲーム分析：安全規制をとして，地域学研究，Vol.40, No.2, pp.293-314, 2010, 査読有り。
- 4) Fukumoto, J. : Investigation of the Roles of Proposal-Based Systems of Regional Policy, Social Capital and Development Trends in Rural Areas, MARG, Vol.4, pp.249-263, 2009, 査読有り。
- 5) Fukumoto, J. and Okamoto, Y. : Social Network Analysis of Japanese Special Zones System, Proceedings of 11th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management, 2009, CD-Rom, 査読有り。

[学会発表] (計7件)

- 1) Fukumoto, J. and Goto, Y.: Vehicle durability and compulsory inspection and maintenance, 12th WCTR, Lisbon, Portugal, July 11-15, 2010.
- 2) Fukumoto, J.: An Empirical Analysis of the Innovation and Diffusion of Deregulation, Western Regional Science Association, Sedona, U.S.A., February 21-24, 2010.
- 3) 福本潤也・岡本佳洋：提案型制度の利用実績における自治体間格差の実証分析，土木計画学研究発表会，金沢，11月21-23日，2009。
- 4) 福本潤也・岡本佳洋：構造改革特別区域制度の適用実績の可視化，地理情報システム学会研究発表大会，新潟，10月15-16日，2009。
- 5) 福本潤也・後藤雄太：規制改革提案の審査ルールと事後評価ルールの制度設計：安全規制を例として，日本地域学会年次大会，函館，10月25-27日，2008。